

各教科の大切な「ことば」の「意味」「定義」を十分に「理解」し、
正確に身に着けて「定着」させよう

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) 開倫塾の時間では、「効果の上がる勉強方法」を皆様とご一緒に考えています。学校時代だけでなく、社会に出て仕事や社会的活動をするときに、また、豊かな人生を送る上で一生にわたって役に立つ「効果の上がる勉強方法」を皆様とご一緒に考えています。
- (2) 本日 2018年4月14日(土)、第1618回目の開倫塾の時間では、大切な「ことばの定義」をよく「理解」し、身に着け(「定着」させ)、自分のものとして使いこなす(応用)にはどうしたらよいかを考えます。

2. (1) 英語、数学、理科、社会、国語をはじめ、音楽、美術、技術・家庭、保健・体育など学校で学ぶすべての教科には、大切な「ことば」が学年ごと、領域ごとにたくさん出てきます。
- (2) その大切な「ことば」の「意味」、つまり「定義」の一つ一つを十分に「理解」し、身に着け(「定着」させ)、自分のものとして使いこなす。
- (3) 言葉の意味、定義についての「理解」があやふやであったり、正確にきちんと身に着いて(「定着」して)いなければ、それをを用いることはできません。それをを用いてテストでよい点数を取ることもできなければ、それをを用いて仕事や社会的活動、日々の生活をすることもできません。ですから、大切な「ことば」だけでOKですから、「ことば」の「意味」「定義」は正確に「理解」し、身に着ける(「定着」する)よう、日々心がけてください。

3. では、どのようにすれば各教科に出てくる大切な「ことば」の「意味」「定義」を「理解」し、「定着」させることができるか。

- (1) 大切な言葉について、「～」とは「…ということ」だということが出てきたら、一語一句ていねいに教科書を読み、どのようなことかを自分の頭で考えることです。
- (2) 大切な言葉の意味がよくわかったら(「理解」できたら)、繰り返し音読し、何も見ないで「暗唱」(暗記)できるまでにしてください。
- (3) 「ノート」に「書き写し」、何も見ないで書けるまでにしてください。

4. おわりに

- (1) 中学校から高校までに学ぶ内容について言えば、一つ一つの教科に「～は…だ」という大切なことが学年ごとに200～300もあります。9教科なら2000～3000はあります。
- (2) 大学や短期大学、専門学校、専修学校、大学院なら、大切なことは各教科1000～3000と多いのが現実です。
- (3) 大学の第2外国語では、1～2年間で2000～3000語を身に着けなければなりません。
- (4) 社会に出て仕事や社会的活動をするときにも、大切な「ことば」「考え方」は、一つの仕事や社会的活動をめぐって1000～2000以上出てきます。

「～とは…だ」ということばの「意味」「定義」

をコツコツと「理解」し、「身に着ける」(定着させる)ことを是非心がけて頂きたいと思えます

— 2018年4月9日(土) —